

第5回中野区子どもの権利委員会
(令和7年4月15日)

午後7時00分 開会

事務局（子ども政策調整係長）

皆様、こんばんは。会議の開催に先立ちまして、ご報告させていただきます。本日、上田委員はご欠席の連絡をいただいております。9名の委員の皆様にご出席いただいております。委員の過半数が出席されておりますので、委員会は有効に成立しております。

続きまして、本日もお手元のパソコンにて資料の閲覧をお願いします。何か不具合がございましたら、お近くの事務局の職員までお声がけいただければと思います。

続きまして、令和7年4月1日付の中野区の人事異動によりまして、事務局体制に変更がございましたので、ご紹介させていただきます。

《事務局自己紹介》

事務局（子ども政策調整係長）

異動に伴う事務局のご紹介は以上でございます。

それでは内田会長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

内田会長

皆さん、改めましてよろしくお願ひいたします。これより第2期第5回になります中野区子どもの権利委員会を開催いたします。新年度が始まりまして、お忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。私も4月にまた新入生を迎えて、気持ちを新たにしたところなのですけれども、ちょうどこの4月から、林さんが同じ大学の教員になりまして、同じ大学、同じ学部、学科は違うのですが隣の学科で、たまたまそういう形になりましたが、改めてよろしくお願ひいたします。

それでは、次第をご覧ください。本日の次第です。まず、「前回の振り返り」、そして「子どもの居場所に関する審議」、「その他」ということで進めていきたいと思ひます。

まず議事の1番目、「前回の振り返り」です。皆さんに出していただいたご意見を事務局にまとめていただきましたので、まず事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（子ども政策調整係長）

《資料1について説明》

内田会長

前回の内容、さらにプラスアルファでいただいたご意見について、今、説明していただきましたが、これについて追加で何かをお尋ねになりたいところでしたり、あるいは、まとめていただいた中で、もう少し伝えたいところ等々あれば、今ここでちょっと時間をと

りますけれども、どうですか。大丈夫でしょうか。ありがとうございました。

それでは、議事の2番目に進みたいと思います。子どもの居場所に関する審議です。まず事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（子ども政策担当課長）

《子どもの居場所に関する審議にかかる資料説明》

内田会長

ありがとうございました。それでは、この件について、審議を進めていきたいと思えます。今まずざっとご説明をしていただいたのですけれども、見てもいただいていたかなと思うのですが、まず現状課題等、あるいは必要性、意義、また前回いただいた意見を落とし込んだところ、今見ていただいたのですが、どこからでもいいので、感想でもいいですし、何かここについて意見があるということがあれば、順不同でいただければと思うのですが、何かございますか。どうでしょうか。

別當委員

ありがとうございます。この赤字の「居場所と子どもをつなぐ」というところはすごくいいなと思いました。ここ数か月でたまたま行った場所が、そういう中高生支援をしている場所だったりとか、たまたま行った体育館で、異年齢で知らない人たちと一緒にバレーボールとかをしてすごく交流ができた経験とかがあって。でも、やっぱり場所があったり、チャンスがあるということ子どもたちにつないでいくことはすごく重要だと思いました。

内田会長

どうもありがとうございます。どうでしょうか、ほかに。どこからでもいいのですが、井田委員、お願いします。

井田委員

今のお話から思い出したことというか、居場所と子どもをつなぐという部分で、中高生の居場所は本当はないということが前回もあったと思うのですけれども、それを実感したということがあって、武蔵台小学校と北中野中学校との間の細い道があって、学校と学校がつながっている部分があって、そこは公道だとは思っているのですけれども、すごく真っすぐで、スケートボードがすごくしやすい場所なのですね。子どもたちが、中学生がスケートボードをそこですごくやっていて、車が通れなくなったりとかしたのですが、そこで注意しようかなと思ったのですが、この子たちってここでしかスケボーができないのだから、そのときはったのですよね。またその次の次の日ぐらいに、実は区議の人とそこ

をたまたま通ったときにそのお話をしたら、そうしたら「その子たちにどこどこ公園をつくる時の意見を聞けばよかったわ」とおっしゃったのですよね。それはやっぱり中学生がそういう意見を述べられる場所があるということを知らなかったということであって、何か公園をつくる時に、子どもの意見が必ず反映されるような部分を、もう少し努力しないといけないのだなと実感しました。

内田会長

どうもありがとうございます。今、ちなみにスケボーって、どこでなら公にできるのですか。

井田委員

鷺宮の地域ではあまり広い場所が本当になくて、大きい公園もないので、そういう場所はちょっと思いつかないですね、

内田会長

後で「子どもの居場所のあり方」というところでも、今回いろいろ意見を少し集めてきていただいたと思うので、そこでもまたいろいろお話しは何いたいなと思っているところです。現状課題、必要性や意義という、前半部分のところなのですが、そこについて何かご意見はありますか。

相川委員

権利というか、居場所って何だろうというのがすごく難しいなと思って、例えば中野区では昔から町会さんで、地区委員会で、ミニリーダー講習会というのを各地域でやってくださっていて、中高生向けには、ミニではない、もう年代上のリーダーとしてという場もあったりするのですけれども、じゃあ、そこは果たして居場所なのかというと、やっぱりイベントに参加するようなところは、多分、居場所とは言いにくいのかなと思って。ただ繰り返し参加することで、その仲間が、仲間のコミュニティが居場所として機能することもあるのかなと思ったりしています。なので、居場所と考えたときに、本当に物理的な場所と時間だったり、仲間だったりという、いろいろなパターンを居場所として言えるんだよみたいなことを伝えられてもいいのかなと思います。

内田会長

そうですね。どこにも書いていなかったでしたっけ。いわゆるここでいう居場所とはという定義は入れないといけないところだと思いますので、改めて見て、確認をして、ない場合は付け加えたいと思います。

事務局（子ども政策担当課長）

明確にその部分はなかなか定義しにくい部分ではありますが、現状この中に、お示しているところではないかなと思いますので、その部分は記載の方法等を検討させていただきたいと思います。

内田会長

ありがとうございました。私、あるのですけれども、中間答申で、私たちこの権利委員会の活動の役割として、今までの中野区の子ども施策がどうであって、それらがどう機能していて、あるいは足りなくてというところがないですよ。そこを書かないと、なんかふんわりした、「私たちが考えました」、「考えた内容をまとめました」という内容で、まずそこに改めて「さあ答申の文案です」と言って見たときに、違和感を感じたのです。あくまでもこれまで中野区で、今、相川さんが言ってくださったみたいに、そもそも中野区では歴史的に居場所って地域がこうあってとか、そういう過去に遡った話なんかが入ってきてもいいと思いますし、1の「現状と課題」のところ、あまり一般論は多くなくてよくて、むしろ中野でどうなのかというところが大事で、その中野でどうなのかというところで、データを基に実態をここにきっちりまとめる。私たちの問題意識としてはこうなのだということをもとめる。それだけではなくて、やっぱり子ども施策、特に居場所に関する施策としては各種計画の中にどこに何があって、それらがどれだけ効果的になったのかというところに私たちはつなげて意見を言わないといけないのではないかと思うので、何か施策としてはこういった施策がありました。施設としてはこのぐらいの施設があって、利用はこういう状況でとか、特にやっぱり施策というところがないのはまずいと思ったので、ここは私も考えるので、構成も考えつつ入れていく必要があるかなと思いました。

前回の第1期のときの答申は、本当にまず最初に子どもの参加って何なのかというところを、私たちもまた行政の皆さんも一緒に意識を統一させるという意味もあって、ああいう答申の内容になったと思うのですけれども、これから第2期というのは、居場所という具体的な施策ですよ。それが中野区で今どれだけ十分なのか、必要なことは何なのかというところに意見を出していくところなので、やっぱりそこが必要だと思いました。なので、そこはガラっというか、書き込まないといけないところだと思いました。そこはご相談もさせていただきたいなと思います。お願いします。

相川委員

今お話を伺って、学校と部活以外の区の中高生の居場所というと、児童館と、あと、な

かのZEROだったりするのかなと思っています。昔はU18という形の児童館があって、一応18歳未満のお子さんを入れるという形になってしまったのですけれども、待機児童問題で保育園に替えるということでなくなってしまって、普通のタイプの児童館だけになってしまいました。その児童館というのは中高生を拒むものではないのですが、あまりそんな中高生向けに積極的にアピールしてこなかったという経緯があると思います。ただ、今年の4月から中高生も入れるようにという形で、19時まで時間を延ばす曜日をつくってくださったりとかして、また、U18がなくなってそこが拡充されつつあるところと私は思っています。あとは、なかのZEROというホールのある場所についても、中高生がいられる場所という場所があったのですけれども、あまり人がいなかった場所が椅子とかがリニューアルされてきれいになったのですね。たまに通るかかると、確かに中高生の方が座って勉強していたり、お話もする姿がすごく増えていて、すごくいいなと思っているところです。

あとは、夏休みとかに児童館とか図書館で勉強できる場所というのも10年前にはなかったのですけれども、用意してくださって、告知もしているというのが現状だと思っています。なので、そのような経緯を書けるといいのかなとお話を伺って感じました。

内田会長

ありがとうございます。それはぜひ入れたいですし、あと、1期中野区にある居場所を表にして、ゼロから子どもの世代で、どの子どもたちがどの居場所を、この居場所が何歳の子どもをカバーしているかという表をつくりましたよね。あれは改めて入ってもいいのではないかなと思いました。どこがどうカバーしていて、どの世代が抜け落ちているのか、今これだけ中高校生の居場所がないというお話を聞いているわけですが、中野にはどれだけこういう居場所があって、その中で、なかなかここが手薄であるというようなことが分かるようなものは、表なり何なりをつくって、それは入れているのではないかなというのは思いました。ほかはどうですかね。別當委員、お願いします。

別當委員

サードプレイスという面で、この間、また何度もお話を出している文楽舎さんに、中学の息子が卒業したのでお礼を言いに出向いたところ、何かできることないですかと言ったら、「余っているメロディオンとかそういったものをもらえませんか」と言われたので、いろいろ周りに声をかけて、卒業して要らなくなったものとかを集めて、また持って行ったのですけれども、それは何でかということ、外国籍の子どもたちが経済的にすごく厳しくて、

そういった学校の教材を準備できない子どもたちがいるということだったので、何か役に立ったなとうれしい気持ちがあったのと同時に、そういうリアルな現状というのをリアルに対応している人たちの声から聞けるのだなというのが分かったので、もう一度行ってお話を伺ったら、虐待まではいかないですけど、ネグレクトとかに値する子がいるとか、あと、ヤングケアラーの子は本当にいるよと。でも、個人情報の観点からあまり詳しくは言えないのですが、いるけど、その子たちは気づいていないらしいのですよ。自分がヤングケアラーというジャンルに当てはまるとか、親から十分な教育を受けていないということに気づいてないということを知ることができて、そういう子たちは埋もれてしまうのかなと思ったので、具体的に、こういう子どもたちがいるとなったときに、その子たちに対してどういうことが中野区としてできるのか、一人ひとり、見えていない部分ができるのかというのを整理するには、そういうリアルに対応している人たちの声を聞くのも大事なかなと思いました。

内田会長

そうですね。本当におっしゃっていた、自分に何が必要なのかを認識できない、いろいろ忙しくて、本当だったら時間があって、その時間があれば、「こんなものがあつたらいいな」と思えるかもしれないけれども、そもそもそういうものがないのに、自分に何が必要なのかって、例えば居場所と言われても、自分に何が必要なのかの認識が子どもとしてできないときというのはありますよね。子どもから意見を聞く、それが子どもの権利の視点でとって、意見が上がってこないからといってニーズがないのかというと、そうではないということがあるわけですね。というところを丁寧にすくい取っていくためにはそういう支援している方々にも聞かなければいけないし、そういう視点はあっていいですよ。

別當委員

でも、あんまり数はないじゃないですか。そこもギリギリのよく分からないですけども、予算でやっているから、鉛筆とかもこんな小さい、もうぎりぎりまで使っていたりとかしたので、鉛筆も余っているやつを持って行ったりしたんですけど、そうやって本当に、子どもたちのためにやっている方が、もう少しやりやすい方法を施策に入れるのも大事なかなと思います。

内田会長

ありがとうございました。

相川委員

今のお話を受けて、やっぱり入れなければいけないなと思ったのが、不登校のお子さんの居場所が今どうなっているのかという視点、多分もうデータで何人、だんだん増えている現状があるので、もうそもそも多くの子が居場所の一つである学校に行けてない子がいるはず、増えているので、そこはコメントとして入れたいなと思いました。

先ほどの中野の歴史というところに絡むかもしれないのですが、中野区は子ども食堂と無料塾がたくさんあって、それは本当に素晴らしいことだと思うので、そこについてもきちんと現状、中野区では民間によるそのような居場所も運営されている。行政を中心にマップまでつくって、年々増えたりしていて、本当にすごいなと思うので、そこもしっかり答申の中に入れられたらと思います。

内田会長

ありがとうございます。書き込む必要があると思います。いいですか。取りあえずこのあたりでまた先に行きましょうか。

事務局（子ども政策担当課長）

初めのほうで、相川委員から物理的な場所だけでなく、空間的な意味という部分のご意見いただいたと思います。定義という意味ではないのですけれども、ページ数でいうと8ページ目のところです。「子どもの居場所のあり方」というところの一番上の丸のところ、「子どもの居場所に必要なこと」というところに、一番上の黒ポチのところ、「家や学校などの物理的な居場所に限らず、体験、人間関係も居場所となる」ということで一応趣旨として今、この段階ではこの書き方で入れさせていただこうと思っています。

内田会長

でも「居場所」という言葉を、その前でかなり使ってきていることにはなるので、ここに書いてある内容を、ここの答申でいう居場所とはということで、前に説明を入れていいですね。そのあたりは対応したいと思います。ありがとうございました。

それでは、もうちょっとその先まで行きたいと思います。今、まさに今の8ページでしょうか。「子どもの居場所のあり方」、8ページあたりからですね。このあたりまで話を広げたいと思うのですけれども、たった2週間ほどしか時間がないところで、各委員のいろいろ持っていらっしゃる現場等でお話を聞いてきていただけたところを少し伺えればと思います。

相川委員

ちゃんとまとまっていなくていいところもあるのですけれども、一つは、新しく中1になった女の子で、「子どもの居場所が足りていると思うか」ということについては、「いいえ」と言っていました。「じゃあ、どういう場所が欲しいか」というと、「屋内で友達としゃべったりできる場所がない」と、勉強できる場所はあつたりするけれども。例えば児童館で、高学年のときだと思うのですけれども、勉強部屋みたいなのがあって、そこで絵を描きたくて、その絵のサンプルを見たくてスマホを見ていたのに、「スマホを見ちゃ駄目だよ」と言われてしまって、例えば好きなキャラクターとかスマホを見ながらそれをまねして絵を描ける場所がないので、そういう場所が欲しいという話がありました。

あとは「どんな居場所をつくってあげたいですか」ということについて、「もっと運動できる場所が欲しい」と言っていました。屋内でも、外でもボール投げができないということを行いました。この子たちが6年生の卒業式の頃に、公園で遊んでいる様子を見たのですけれども、乳幼児向けの、滑り台が二つあるような、小さい滑り台、周りに本当誰もいなかったもので、さすが6年生だと思ったのは、その滑り台を使って、だるまさんが転んだをやっていて、一番上に女の子が立っていて、2人のお友達が滑り台を登りながらだるまさんが転んだを止めるというような遊び方をしている、「ああ、すごく面白い遊びを発明しているな」と思って、やっぱり高学年とか中高生でも公園でそういう自由にルールをつくって遊べる場所が必要なのだなと、それを見てすごく感じた経験がありました。

あと続いていいでしょうか。中学2年生の男の子です。「居場所が足りていると思いますか」と言うと、やっぱり「中学生が放課後に集まっていられる場所がない」と。「集団でいると邪魔にされているような気がする」ということでした。「じゃあ、どういう場所が欲しいですか」と言うと、北部の江古田の森のところにえごたいえという民間の児童館みたいな、児童館ではないのですけれどもフリースペースがあって、マンションの1階にすごくいい場所があるのですが、そのような広さがあって、自由に机や椅子を動かしてしゃべったり遊んだりできる場所が欲しいと。ただ、その運営は運営で子どもたちが自由にし過ぎてちょっと問題があるという話も聞いてはいるのですけれども、やっぱりそういう居場所が欲しいのだなと思いました。なぜかという、「静かにしていなければならない場所が多いので」ということです。

あとは、「居場所をつくるなら駐輪場が広いとありがたい」という声がありました。

今、用意されている場所について、「みずの塔ふれあいの家の中学生専用スペースは、勉強するスペースとしてだけ用意されている気がする」というご意見でした。

あとは、また中学2年生の女の子です。子どもの居場所、特に中学生、高校生がいる場所は足りていないと。どういう場所が欲しいかというところ「18時以降も勉強できる場所」。「図書館などは友達と話しながらの勉強ができない」と。あなたが中野区長だったらどんな居場所をつくってあげたいか。「中高生が親も安心して『いってらっしゃい』と言えるような居場所。中高生用の児童館のようなところ、おしゃべり、勉強をおしゃべりながら作業できる、卓球、楽器練習、Wi-Fiがあること」。「あなたが中学生なら、乳幼児、小学生の子どもにどんな居場所をつくってあげたいか」という点については、「児童館、プレーパーク、無料で遊べる場所、外遊び、屋内トランポリン、手づくり工作など小学生と親と一緒に遊べる場所も欲しい」という意見をいただきました。ヒアリングした内容としては以上です。

内田会長

どうもありがとうございました。そうしたら別當委員さらにはあれば、割としゃべってしまいましたね。

別當委員

私、そのメールを見逃していたみたいで、お題に対して正しいか分からないのですが、さっき中高生を支援している居場所というので、鷺の宮にワワワッフルというカフェができていて、たまたま入ったら、「この場所のことはご存じですか」みたいな感じで聞かれて、「いや、何も知りません」と言って、ただカフェだと思って入ったら、「実は中高生の居場所を確保しているところなのですよ」と言われたので、なんかすてきだなって。すごくおしゃれなインテリアで、ワッフルしか売っていないのですが、大人がワッフルのチケットを購入すると、そのチケットがバーっとメッセージ付きのボードのところに貼られていて、中高生が来ると、そのチケットをとってワッフルが食べられるという仕組みだったのですね。それをいろいろなところで話したら、ほかの地域とかでも意外にそういうシステムでやっているところあるよと聞いたのですが、まさかこんな近くにそういう場所ができていたとは知らずに、たまたま入って、なんかうれしかったというエピソードだけお伝えします。

内田会長

ありがとうございます。

井田委員

今の別當さんのところが、コンセプトは「明日もやりたいことが見つかる」というコン

セプトで子どもたちに提供していて、2階はテクリエさぎのみやという名前だそうです。もしよかったら検索してみてくださいと思います。NPO法人CLACKというところがやられているそうです。

私は聞き取りを、小P連の関係でいろいろな地域からの子どもの話が聞けるなと思って、手分けをしていただいて、結構あるのですけれども、本当に思いつくままに答えてもらっているのもあるので、本当にざっくばらんな感じなのですけれども、一つずつお話ししても大丈夫ですか。

内田会長

お願いします。

井田委員

2年生、7歳の令和小学校の女の子です。「中野区に子どもの居場所が足りていると思いますか」については「思う」。キッズ・プラザとか公園とかです。「あなたはどのような居場所が欲しいですか。」「おもちゃがいっぱいあって、みんながいっぱい遊べる場所。」「あなたが区長だったらどんな居場所をつくってあげたいですか。」「大人も子どももいっぱい運動できる場所」という答えをもらいました。

次、みなみの小学校6年生、女の子。「中野区に子どもの居場所は足りていると思いますか。」「南中野地域は公園が多くて遊ぶ場所が多いのはいいと思います。でも室内の遊び場がないのであるといいと思います。」「どういう場所が欲しいですか」に対しては、スタディカフェのような自由に勉強できる場所が欲しい。「区長だったらどんな居場所をつくってあげたいですか」については、「スタディカフェにボランティアの大学生とかに来てもらって、子どもたちの勉強を見てあげられるようにする」という答えをもらいました。

あと、ざっと行きます。5年生女子。中央のほうに住んでいらっしゃる方が「居場所は結構いろいろあると思う。自分は中野東図書館がお気に入り。ほかのところに住んでいる人にも同じような図書館があるといい」「野球とかボール遊びとか、クライミングとかができる場所が増えてほしい」。

小6男子南台の方、「めっちゃでかい家、ゴロゴロしたい、サバゲーがしたい、広くて十分に体を動かせる場所。公園には長いローラー滑り台とか特別な遊具のある大きな公園が欲しい。広々として草が生えているところ、森が欲しい。パルクール場、ボードゲームがいっぱいあるところ、車操縦体験とか職業体験ができる場所。漫画がいっぱい読める場所。大量のレゴができる場所。イベント広場・小さい子が体験できる場、工作とか

レゴとか十分にできるところが欲しい」ということでした。

小学校2年生、7歳、みなみの小学校の方、「生き物を飼っていてくれたらうれしい、両生類、爬虫類系で、家では飼ってもらえないから。野球ができる場所が増えたらうれしい」ということでした。また、「水陸両用車とかジップラインみたいなのが欲しい」。もっと体を動かして遊べる遊具が欲しいということらしいです。

小学校5年生、男の子10歳。こちらもみなみの小学校。「児童館とかで小動物を飼いたい。犬とか猫とか。あと顕微鏡とかを使っていつでも実験したい」。あと、そのお母さんの意見ももらっていて、東大の先生とか、東大生とか一流の人たちと関われる場所とかあったらいいな。児童館とか活動センターとかで一緒に遊べる環境とかがあれば最高だと思います。

小学校5年生、10歳、鷺宮。「友達と楽しく家みたいに部屋でいられるところ。楽しくしゃべりたい。大きい公園が欲しい。その公園で遊んで、そこでたまにお菓子を買って食べたい。保育園の子とかにはいらなと思うけれども、たまにお小遣いが無い子もいるから、お菓子も買えない子がいて、そういう子にお菓子を給付して、友達と仲よくするためにしてほしい。大きい施設、公園、高校生とかも遊べるちょっとした遊園地みたいなのがあって、小学生や幼稚園生や保育園生はそこにある長い滑り台とかアスレチックで遊ばせる」ということを区長になつたらしたいということです。

小学校6年生、女子。江原小学校の子は、「近所についてだけでもいつも行っている児童館が工事に入ってしまうと、ほかには居場所がもうないから増やしてほしい。公園はあるから室内を増やしてほしい」。「自分が区長だったらラウンドワンのスポッチャみたいな施設をつくってあげたい」。そちら追記で「近所の江古田小の子が行く児童館、みずの塔ふれあいの家が工事に入ると本当に居場所がなくて深刻です。ここは高齢者も乳幼児も中高生も勉強スペースもあるので、みんな困ります」ということでした。

内田会長

ありがとうございます。

小宮山委員

私も先週メールをいただいたときに、私の周りの、私の周りって、もう年代が上なので、子どもたちにどうやって取材ができるかなと考えて、とても親しく細かくやっていただいている、今までもお世話になっている鷺の杜小学校の校長先生に声をかけてみました。「いいよ」と言ってくださったので、アンケートを簡単につくって、「このアンケートはあなたの自由な考えを記入してください。個人を特定することや成績に関わることは全くありま

せん。中野区では、皆さんの意見を生かして取組を進めるようにしています。皆さんの意見がすごく大事です」というところを強調して、自由に書けるようにしました。

それで学校は新学期が始まったばかりなので、負担がかかっては絶対いけないと思ったので、「できるだけ数で結構です」ということと、「やれる学年で結構です」ということでもお願いしたら、5年生の28人が答えてくれました。「中野区に子どもの居場所は足りていると思いますか」と言ったときに、その28人の内訳は「足りていない」が17人、「足りている」が10人、「分からない」は1人。この「分からない」ということはとてもいいなと思ったのですが、クラスで取り組んでくださったようなので、誰かが大きい声を出してしまうとそれに引っ張られることが結構あるなというのはこの結果から感じているのですけど。

足りていない理由の中に、理由はいっぱい書いてくれているのですね。「思い切りボールを投げられる公園が少ないから」というのは6人ぐらいが書いていて、それから、「小さい公園しかなくて遊具も少ないから、やっぱり公園で思い切り遊びたい」というのや、「木登りができないから」とか、制限が多いというのはいっぱい感じているのですね。「広いグラウンドはあるけれども、団体予約のところばかりで使えない」とか、「人工芝のあるグラウンドをもう少し増やしてほしい」ということが書いてあります。足りているの10人は、「児童館が近くにいっぱいある」。鷺の杜小学校の近くは割と、いろいろな種類の児童館がありますので。それから、「子どもや大人でも行ける児童館があるから」と答えているのですね。気になったのは、「あまり遊んでいないし、別に公園が少なくてもいいと思っている」と書いてある、ちょっと投げやりかなと、ここは心配かなと思いました。

2問目は、あなたはどのような居場所が欲しいですか。これは選択肢をつくって、「それ以外のところは自由に書いてください。それから絵で表現してもよいですよ」と書いたら、複数丸をつけてもいいですと。自由な遊びができる公園26人、友達とのんびり話せるところ16人。1人でゆっくりのんびりできる場所11人。絵を描いたり工作ができる場所11人。静かに勉強できる場所7人。たくさん本が読める図書館7人、歌や楽器や演奏ができる場所6人、困ったことを大人に相談できる場所、これはとっても少なくて3人。相談はうまくいろいろしているのか、ニーズに合っているのかなと思いました。その他、考えを自由に書いてくださいのところ、絵で表現してもいいですよというところなのですが、絵も結構描いてくれているのですけれども、いろいろ貸し出してくれる公園、自転車などの貸出があるといいな。ダンスの練習ができる場所、選択肢の中にダンスを入

れなかったのは私が失敗したと思いました。それから、秘密基地が欲しい。やっぱりあんまり公になっている広いところじゃないところもニーズかなと思いました。それから、赤ちゃんと一緒に遊べるところと書いているのですね。これも面白いところかなと思いました。

「あなたが中野区長だったら0歳から小学生の子どもたちにどんな場所をつくってあげたいですか」。いろいろな発想があって、A4の2枚ぐらいいっているのですけれども、面白いです。この5年生は「お腹が減ったら自由にもらえるおにぎりが置いてあるところ」、「公園で遊べて、公園内にカフェをつくりたい」、「ベンチが沢山あるところ」、食べるということと遊ぶということをくっつけている子どもがとても多かったです。広くて遊具がたくさんあって、年齢に関係なく楽しめる公園。人工芝のある大きな遊ぶところ、プールつきのカフェのある公園って、カフェって誰かが言ったのか、それが結構書かれているのですけれども、「3歳専用の公園、運動場をいっぱいつくってあげたい」、3歳に限っていっぱい遊ばせてあげたいというのが書いてありました。それから、「自然豊かな公園、アスレチックのある公園」。食べられる飲食店が公園の隣にある。そして、フリーWi-Fiがあることが書いてありました。特異なのは、「防災訓練が定期的にある公園」。さすが5年生かなと思いました。あとは、文房具屋さんをもっといっぱいつくって、区長だったら「いろいろな文房具をみんなで手に入れられるところ」。「ミニ生物園をつくり、生き物の公園をつくって、家族で思い出をつくれる場所をつくってあげたい」。「親もゆっくりできて、食べるスペースもあって、子どもが遊べる建物」。ここに結構大人のことを書いているのですね。高齢の方がゆっくりできるスペース、子どもと大人が楽しく遊んでいい思い出がつけられる場所。みんなが自由に遊べるところ。面白い具体的なのは、「マックとくら寿司とサイゼリヤで、みんなでご飯を食べたり、おしゃべりができる場所」。「子どもの悩みや困ったことを相談できる場所」と書いているお子さんもありました。

自分が区長になったら自分だけというのではなくて、小さい子どものことも結構見えますし、それから、大人のこともありますし、中学生未満がただで遊べるとか、そこで書いてある括弧の中が面白いのです。「人をたたいたり、いじめをしている子どもは出禁」、そういう決まりをつけておくということが書いてありました。

いろいろ考えていることが少しでも、私はこのアンケートの一番最後のところに「質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。結果などについては後日、校長先生を通じてお伝えします。どんな状況でどんな話合いになりましたよということは、ちゃ

んとフィードバックしますよ」ということを書いてアンケートをとらせていただきました。学校がとても協力的だったことと、先ほどありましたけれども、「あなたたちの意見をいろいろなところで吸い上げるところがありますよ。それを今、頑張っていますよ」ということを伝える場面もあっていいかなと思ったのでやらせていただきました。以上です。

内田会長

どうもありがとうございました。本当におっしゃっていただいたことが大事で。

小宮山委員

こんな設計図書いて。遊園地ってこんな観覧車も描いてあったり。

内田会長

いろいろな絵が。設計図もですね。後で見たいですね。

ありがとうございます。そうやって子どもの意見を聞くときの聞き方というのは本当に多様で、絵も本当にぜひ入れていただくとこんなふうに、いろいろな子どもたちの考えに触れることができますので。ありがとうございます。

隅田委員

拙い書面をつくらせていただきまして、べた打ちで申し訳ないのですが、お手元に置いてあるものが、もう詳しくは説明しません。まず個別に意見聴取を行えたものに関しては、3名のお子様です。保護者の方をお願いをして、こういう感じでお一人ずつ、子どもたちが自分で書いたものをいただくことができました。後でまた見ていただければなと思っています。具体的に書いてある内容は表にあるとおりになっています。

乳幼児の意見聴取についてですが、これまでも子どもの権利委員会の中で乳幼児の意見をどんどんと吸い上げていこうということを内田先生はじめ、皆さんと確認してきたところですが、なかなか難しいというところ。今回、何とかチャレンジをしたかったのでトライはしてみたのですが、0歳や1歳の子に、内田先生にご提案いただいた絵を描いてでもいいので、何とかというお話をしたところ、「いやそんなの丸しか描けないよ」とか、「波線しか書けないよ」みたいな感じで、「それは厳しいんじゃないの」ということで、今回は頑張ることができませんでした。ただ、そうは言っても、多少なりとも何か収穫はないかなということで、今回内田先生のほうからメールであったような趣旨からは少し外れてしまうかもしれませんが、龍の子保育室というところの副園長先生と、それから保育士の方1名に、今、実際に通園されている子どもだったり、それから保護者と関わる中で感じていることを少しお聞かせいただけませんかということで質問させていただいた内容が、書

面にあるとおりになっています。

ピックアップとしては、実は屋外で遊ぶことよりも、屋内で遊ばせることを今、家庭ないし大人目線で言えば、とても好んでいるということ。それから、子どもだけではなくて、実はそこにいる大人同士のコミュニケーションの場でもあるのだよということを、すごく日々保護者と接していて感じているということでした。

先ほど、中間答申案の中に、近くにいる大人のこと少し明記されていて、事務局のほうで赤入れをしていただいた、きちんとした大人がいる居場所というところの記載もあったのですが、こういう保育室の先生方から見ても、近くにどれだけ大人が、それがいわゆるベストな人材かどうかは、何がベストか、何がしっかりしている大人なのか、きちんとした大人なのかというところは、皆さんとこれから議論しなければいけないと思っていますのですが、その必要性をやっぱり保育室側も強く感じていたというところがマッチングしているのだなというのは今、感じたところです。以上になります。

内田会長

どうもありがとうございました。大人の意識というところに働きかける必要があるということは前々回でしたかね、出た話でしたね。ありがとうございます。今回0歳、1歳のところに何とか聞こうと頑張っていた。本当にそういうことの繰り返しなのかなと。私たちのほうが、やっぱりどうやって聞き取るかということ、本当にいろいろな試行錯誤をしていく必要があるところかなというのは改めて思います。本当に先生方に聞くということも、ふだん見ている子どもたちや親のことについて少し代弁もしていただけたと思うので、ありがとうございました。

出竹委員

私もこのメールをいただいて拝見した際に、できるだけ子どもと対面してお話を聞きたいなと思ったので、その期間に行われている地域の居場所で話を聞きました。その際に、そこにいる子どもたちに、「居場所」をどう伝えようか、そこが自分の中で非常に難しかったところです。

なぜそういったことを聞くかということも、子どもにとっては唐突に聞かれるイメージがあったので、以前この子どもの権利委員会でアンケートをとった過去の資料を参考になぜ私たちがこの意見を、子どもであるあなたたちに聞きたいのかという趣旨の文章を作り、そこをまず説明させてもらってから意見を聞きました。「子どもたちの皆さんが安心して幸せに暮らせるように、誰にとっても住みやすい中野にするために皆さんの意見をまずは聞

かせていただきたい」「答えたくないときとか、答えが思いつかないときには無理に答えなくても大丈夫だし、名前は公表されない、答えたことはほかの人には分からない」ということを伝えました。子どものほうから、「その聞いた意見は自分たちに教えてもらえるのか」という意見もありました。今回5人の子どもたちに聞くことができました。

5年生の12歳の男の子です。まず、「居場所が足りているか」ということの質問になかなか答えられなかった。「足りているかどうか分からない」ということでしたので少し質問を変えて、「あなたの周りに安心できたりとか、楽しかったり、ゆっくりできるような居場所ってありますか」と聞いてみたら、その子は「公園」、具体的には「平和の森公園で、木とか池があって、魚がいて自然がいっぱいあるから」と言っていました。この子に「あなたが区長だったらどんな居場所をつくってあげたいですか」と聞いたら、「公園です」と言っています。

ほかの小学校6年生の男子ですが、この子もやはりお気に入りの公園、居場所については、「やすらぎ公園が好きです」と。「あなたは中野区にどういう居場所があったらよいと思いますか」と聞きましたら、「学生限定の公園をつくってほしい」と言っていました。「なんでかな」と聞いたら、「大人は、子どもに対していろいろルールを言うけれども、結構大人も、例えば公園でごみを捨てたりとか、タバコを吸っていたりとか、そういうこともあって、だったらもう子どもだけの居場所が欲しいよ」みたいな、「子どもだけの限定の公園をつくってほしい」と言っていました。「区長だったらどんな居場所をつくりたいですか」と聞いたら、「学校の屋上を解放してほしい」と。「人工芝にしたい」、この子はそういうふうに思っていたようです。

ほかの子も同じように、小学校5年生の男子は、やすらぎ公園、柴町公園、本町のほうの居場所だったので、あと本五ふれあい公園、あとは「同じように学生しか入れない公園をつくってほしいです」ということを言っていました。

あと、もう1人、小学校6年生の男子で障害があるのですが1人で外出することをお母さんが少し心配しているような家庭だったのです。その男子にお話を聞いたところ、「公園に1人で行きたい。いつも自分1人では公園になかなか行けなくて、やっぱりお母さんが心配して「ついていくよ」と言うので、「自分は1人で公園に行ってみたいんだ」と話してくれたということが印象的でした。

あと、高校生の女子に聞いたのですけれども、その子は人と関わることや、にぎやかなところが少し苦手ということでした。自宅でなかなか勉強がしづらくて、「自宅以外で勉強

ができて、自分たち高校生を受け入れてくれる夜も開いていて、安心していただけるよう大人がいる、カフェとか、夜の図書館みたいな、そういう居場所があるといい」という意見もありました。

内田会長

どうもありがとうございました。皆さん、急なお願いにもかかわらず、大変丁寧に聞き取りをしていただいて、どうもありがとうございました。林さん今、皆さんの聞き取りを聞いて何かご感想とか、ご感想ではなくてもご意見でもいいのですけれども、ありませんか。

林委員

ありがとうございます。私、中野区民ではないということもあって新年度入って忙しくて、聞くことができていないのですけれども、今ネットで見えてはいたのですが、中野区はこの4月から児童館の時間を延ばしていて、まだ4月から、今日まだ15日なので2週間ばかりで、結構その辺の利用は増えて、周知はどんなのかなというのが気になっているのですが、何かありますか。

事務局（育成活動推進課長）

様々ご意見ありがとうございます。児童館は令和7年4月から児童館の機能強化ということで、「基幹型児童館」といって、中学校区に1館、基幹型児童館というのを設けまして、移行させて、そちらはこれまで火曜日から土曜日に開館していたものを月曜日も開館いたしました。それから中高生ですとか、乳幼児親子さんでも、そういった必要がある方は利用しやすいようにということで、取りあえず週2日、水曜日と金曜日を今まで6時だったものを7時まで開館時間を延長とさせていただきます。あとは基幹型児童館につきましては、利用者支援専門員さんといって、身近で気軽に乳幼児親子さんが相談できるような形で、相談しやすい環境をつくるということで専門員さんを置いて、日常会話であるとか、遊びの中の会話であるとか、そういったところから相談を受けやすいような体制をつくっているところでございます。

周知のほうは、地域のほうにチラシ等をまかせていただいたりですとか、あとは小P連、中P連といったところでもご案内をさせていただいたりという形でご案内をしております。また、4月から始まってすぐですが、例えば乳幼児親子さんでも、やはり7時までご利用いただいているといったようなこともご報告いただいておりますので、必要な方が必要なときに相談できたり、交流ができたりといった場があるということが重要なと考え

ております。

林委員

ありがとうございます。時間を7時までがいいのかどうかとか、きっと高校生はそれでは足りないのだろうとか、いろいろと思う中で、一応児童館は児童福祉法のところでの扱いでいうと18歳未満までを対象としていますので、小学校6年生までを対象とするわけではないので、やっぱりそこは使えるようにどんどんある意味整備をしていっていただけたらなというところが一つあります。

あと今、ほかの話の中でも、屋内で遊べる場所が欲しいとかいろいろとあって、新たに作るのは確かにお金と場所に余裕があればと思うのですが、既存の行政施設を、要は子どもが使いやすい、使い勝手がいいのかどうかで、今、見たらやはり登録をしないと使えないというところの中で、そこに未成年の子どもだけが使えるのかどうかとか、お金の問題とかいろいろとあって、そこは、あとは特に子どもは予約しないで当日みたいなところがあったりする中で、そういう「あいているときだったらどうぞ」みたいなことを、本当はしてほしいし、するべきではないのかなという施設利用率を上げていくというのなら。というところの中で、いろいろと区民活動センターとか多々ありますけれども、そこは子どもにとっては使いやすいものなのか、やっぱり大人じゃないと、特に利用料をとっているものであれですけど、そこはどんな感じになのですか。

事務局（子ども家庭支援担当部長）

区民活動センターは直接の所管ではないので、私の知っている範囲でお答えをいたします。まず区民活動センターでも、ロビーとかで自由に出入りして、特にそこでお話ししたりとか、そういうのでやっているような区民活動センターのスペースに余裕があるところはありますので、集会室とかを必ず借りなくても、そういうロビーのところでも使えるようなところも幾つかはあるというところ。

あともう一つ、施設の予約につきましては、今まで区民活動センターは集会室の抽選があって、毎月第3月曜日に抽選会というのをやっていたのですけれども、今、所管部のほうで、システムの検討が進んでおりまして、恐らく今年度中にリリースされるのではないかなということでは思っているのですが、そうなってくると、ここは定かではないのははっきりしたことは言えないのですが、団体登録においてもそこまで必ず大人がいて、代表者で、それで団体を登録しなければいけないというところまで団体の制限があったかどうか、そこは定かではないのですが、ただ、さっき言ったように、施設予約システムが今後

オープンしてきますので、そうなってくると、ある意味自由に利用がしやすくなるといったところが今後なってくるかなというところはあるかなと思っています。

林委員

ありがとうございます。所管じゃないからというところはもちろんあるのですが、ただ、子どもも区民なので、区の施設、だから居場所というのは別に所管しているところだけが使えればいいというわけでは全然ない。だからそれは公園とかもきつとそうだと思うのですよ。なので、やはりそこは居場所という議論の中では、区内の施設、区が保有している施設というところを、やはりきちんと子どもにとっても居場所として使い得るものになっているのかどうかというのを、区全体の中でそこは意思を統一するというか、やっていくことが大事なのだろうなと思っています。

ちなみに私は世田谷区の子ども権利委員会にも関わっているのですが、世田谷区も結構使える時間を今、子ども向けに、夜とかは自由に、特に、世田谷区の場合はユースセンターが3館あるので、運動とかそういう場所はともかく、中高生対象の自習室です。勉強できる場所を今、中学生は8時まで、高校生世代は夜9時まで、区民センターを一応開けるように今年度からしていますし、Wi-Fiも自由に使えますよと。食事は中野区も大丈夫なのかな。ある程度ゴミとか持ち帰ればいよいよみたいなのもやっていたり、あと児童館も夜開けるようにしているとか、9時まで楽しむというのをやっていますので、今ある施設の有効利用というところをそれぞれ図っていくことは大事ではないかなと思っています。ただ、やはり安心していただける場所という話がありましたけれども、そこで何かあったときの対応がやはりいづれにしても出てくる、施設管理の問題と、やはりけがとかの問題ももちろんありますので、そこと合わせていくことは必要なかなと思っていますが、新しくつくるよりは今あるところをどうつくっていくのかということと、あと屋内で遊べる場所は、確かに常に言われているところ、中高生が体育館とか雨の日でも使える場所というのを、どう今ある施設の中で使えるように、お金をとらないでなのか、うまくやっていけるといいのではないのかなと話を聞きながら思いました。ひとまず以上です。

内田会長

どうもありがとうございました。一通りお話をさせていただいたのですが、ほかの方のお話を聞かれて、こういうニーズもあったとか、もしそんなことがあってもいいかなと思うのですが、どうでしょうか。

相川委員

中野区で面白いなと思っているのが、なかのZEROのホールを2か月、直前に空いていたら、子どもは練習のためにホールを借りられるよというルールが今、なかのZEROにはあって。ただ、人を呼んでライブとかはやってはいけならしいのですけれども、そんなルールをなかのZEROの指定管理者もやってくれていて、すごく面白いなと。それはたしか、お子さんは無料だった。ただ団体登録のときに一応大人が1人いなければいけないみたいなルールで、子どもに「やったら？」みたいな話をちょうどしたので、そういう面白い取組もあるんだよということを。どれくらい使われているのかは全然知らないのですけれども、もし、でも多分多くの方は知らないと思うので、知ってほしいなと思ったりもしました。

あとは、先ほどあった区活のロビーが使えるかどうかというのは、中野区は区活によってルールがかなり違うと伺っていて、すごく厳しいところは全然使えないしというのは聞いたりしています。

あとは、NAKANO HAKOという新しくできた場所も、子どもの学習スペースを、民設児童館みたいな、広場みたいな場所。会議スペースを使って、夏休みはそういうのをやってくださったりとかしています。今、それこそ、ここの区役所の1階を思い出しました。今フリースペースがあって、勉強している中高生がいたり、多分、ここの1階はしゃべっていても誰も怒る大人がいないので、しかも変な人は多分そんな来ないからなのか、結構いらっしゃるようなので、すごくいい居場所になっているのではないかなと思います。

ただ、中高生が区役所の1階の会議室を予約して借りたというのは、私は聞いたことがないのでけれども、そこも中高生が借りて、イベントができたりしてもいいのではないかなと話を聞いていて思いました。

あと1点だけいいですか。あとは児童館、先ほど新しく変わったということで、うちにもチラシが、小学生経由ではまず、中高生からはまだもらっていない気がするのですけれども、ある児童館では、「子ども会議をやりました」とちゃんとチラシに載っていて、「子どもたちだけでルールを決めました」ということもチラシに載っていたりして、そういうミニ子ども会議をいろいろなところでやって、子どもたちの意見がその居場所に反映されていく雰囲気になっているのかなと、とても心強く思いました。

あとは、つい最近、中学生にボランティアを頼みたいという話があったりしたのです。この間のランニングフェスでも中高生のボランティアが活躍したと聞いています。小P連がこの間区役所で大きなイベントをやったときも中学生のボランティアが活躍した。今度

わんぱく相撲というのがあって、そこがちょうどにぎわいフェスタというイベントとかぶってしまって、大人のボランティア不足ということで、中学生もボランティアに入ってほしいみたいな話を伺ったところです。

そのときに私が感じたのは、各学校にはボランティア部があったりして、ボランティアができるのですけれども、果たしてそこで受け入れる大人側が子どもの権利だったりをちゃんと知っているのかな、ちゃんとした大人なのかなというのはすごく気になったところで、居場所にいる大人といったときに、こういうボランティアで参加した場所にいる大人が本当にしっかりしているのかというのはすごく大事なところだなと思いました。ハイティーン会議を見学させていただいたときに、その事務局さんは若者会議とハイティーン会議があって、若者会議の大人と中高生が直接連絡先を交換しないようにすごく神経を使っていたのを記憶しています。また、若者無料塾とか、そこも無料塾を主催されている方が子ども向けに何かやっているという、明らかにおかしな人が「自分もやりたいです」と来たりすることがあると言って、誰でも、どんな大人でも中高生と一緒にいていいのかという、変な事件とかに巻き込まれてしまう可能性もあるので、居場所をつくって、じゃあ、どんな大人がいるのかというのはとても大事なところで、気を抜いてはいけないところだなと思っています。まとまっていないのですが。

内田会長

ありがとうございました。

別當委員

小宮山委員が集めてきてくださった意見を聞いて、本当に中野はそういうのないなとリアルに感じたのですけれども、別に悪口ではなくて、私も地方出身ですし、もともと東京に来て、最初に住んだ場所は中野ではないので、やっぱりほかのところには普通にあるものが意外と中野にないのと、引っ越してきたとき、第一には公園だったのです。でも、それは何か理由があるのかなと疑問に思ったのと、なぜ、できないこともあるじゃないですか。先ほど林先生が言ったように、お金が莫大にかかるし、場所も必要なので、今あるものをもっと子どもに寄り添ったスペースに変えていくというのはすごく大事になってくるかと思うのですけれども、子どもの意見とか要望とかを集めたところで、でも中野としてできること、できないことというのは、理由も含めて明確にフィードバックしたらいいかなと思いました。

内田会長

ありがとうございます。

林委員

さっき、隅田さんが乳幼児の話をしていたので、それに合わせてです。内田会長から絵でという話があったのですが、私も今年2月にドイツに行って、このためだけにと
いうわけではないのですが、いろいろな中で視察をしたときに、デュッセルドルフ市に
行ったのです。デュッセルドルフ市は、2016年から都市計画における青少年の参加とい
うのにずっと取り組んでいて、大人の評価があるときは子どもも参加できるよという制度
があって、担当の職員を2人配置しているのです。なので、向こうの方が言うには、「3歳
以上は意味ある参加ができる」というところで、3歳以上には必ず声を聞くということ
です。信号とか公園とか自転車道の在り方とか、都市計画なので公園とか居場所だけではな
くて、あらゆるところで、基本的には子どもの声を聞くということを徹底してやっている
ということです。その中で、まさにその3歳、私も見させてもらって今日持ってくるの
を忘れたのですが、どんな公園がいいのかとか遊び場がいいのかみたいな絵を描い
てもらって、それを集めてということを常にやっているということをしていました。実際
に大人の思う公園もあれば、子どもが思う公園もやっぱり違うので、それは当事者である
子どもに聞かないといけないよねというところを大人に対しても伝えていくということで、
それをやるのは結構時間もかかるし大変なのだけれども、「子どもの声を聞くというのを積
み重ねていくと、まちはよくなりますよ」みたいなことを担当の方が言っていて、「ああす
ごいな」とかって思いながら。だから、そういう意味では今回テーマは「居場所」ではあ
るのですが、やはり子どもというところを扱っている中では、やはり先ほども言いました
ように、いろいろな行政施設は全て子どもだって区民なので、利用者でもあつたりします
ので、そこについて何かあるときは常に子どもの声を聞くということを徹底していくこと
は本当に大事なのだなど。それを積み重ねていく、乳幼児からやっていくというところが
大事だし、大人も保育士も、「聞いても丸しか書けないよ」と言うかもしれないけれども、
いやそれでもいいから書いてもらおうということをやっていくことが本当に大事で、これは
隅田委員が書いているところでも「泣くしか意見が表せないけれども」とかってあります
けど、泣くのだってまさに子どもの意見なので、やっぱりそこをきちんと聞くというのを
中野区だからこそやっていくというのはできるのではないかなと。乳幼児の声を聞いてや
っている自治体は国内にあまりないですよ。

内田会長

あれは先進的に中野がやったと思いますね。

林委員

なので、むしろそこを丁寧にやっていくことが大事かなと思っております。

内田会長

ありがとうございました。本当に今のお話で、今回子どもの居場所というのがテーマなのですけれども、それをどう中野の居場所をよりよくしていくかという話、それが今回のテーマですけど、でも、それを考えていく中で、子どもたちの声をどう聞いていけばいいのかという私たちの大人の力が本当に問われているのだということをやっぱり改めて実感しますよね。私たちが聞きたいようになかなか答えをもらうこともできないのも当然ですし、また、何のために聞くのかとか、それをフィードバックするとか、既に委員の方々は意識してやっていただいてありがたかったのですが、聞く以上は責任を持って聞き、フィードバックをしていき、別當委員おっしゃっていたように、できること、できないことという話、聞いて終わりではなくて、何が実現できて、何が実現できない。実現できないとき、それはなぜなのかということ子どもに分かりやすく説明をしていく。そういったところの役割をやっぱり私たちの委員会こそ担わないといけないところだなというのを改めて伺っていて思いました。

割と今日は、本当にざっくばらんに、一部の声でもいいからぜひ聞いてきてほしいというお話をお願いしました。聞いてきていただきました。こういう聞き方をすると、例えばそれは一部の声じゃないかと言われることが多いのですけれども、それは一部ではあるけど、またほかの誰か子どもの意見を代弁しているかもしれないとやっぱり捉えるのではないのか。実際に何かお金をつけてやっていくときに優先順位とか、そういうことを考えていかないといけないときはありますけれども、まだその段階ではありませんし、その前の段階であれば、「それは一部の意見だろう」という意見は、やらないための理由にしかないのではないのかなと思います。そこをまずすくい取っていくとことを、大人の意識として当たり前だと落とし込めるように、我々も、子どものこういった問題を考えていく委員も経験を積んでいかないといけないところだなと思いました。

この答申をどうまとめていくのかというところで考えていたのですけれども、例えば相川委員がおっしゃっていた「不登校の子どもの居場所は十分なのかという視点は大事にしたい」というお話があって、それは本当に誰ひとり取り残さないというところでは、今回聞けてないいろいろなバックグラウンドのある子どもたちというのがあるので、そう

いったところの声を何とかして反映したいなというところ。不登校もそうですし、障害というところであったり、施設の子どもであったり、いろいろ前回の委員会にも出しましたよね。いわゆるなかなか全体のアンケートですくいきれない特別なニーズがあったり、いわゆるマイノリティと言われるような、そういう子どもたちの声もきっちりと聞いて、その意見を落とし込んでいくことはやらなければいけないのではないかと。それは今回中間答申なので、最終的な答申に間に合うように、例えばヒアリングをしていくとか、そういったことはあり得るのかなと思っていました。誰ひとり取り残さず、全ての子ども意見を聞いていくという意味において。

それから、今日もいろいろ伺って、前回の第1期の際に、居場所をリスト化したのですけれども、それにはないものも結構ありますよね。つまり、大人対象というか、大人が主で子ども限定でない施設というのもあるとあって、実際は子どもも使っていて、でも子どもが使おうとすると使いにくいとか、そういったところも広げていかないと駄目でしたね、そういえば。子どものための施設だけではなくて、子どもも使える施設についても視野に入れないといけないのではないかと。前はどのような居場所があるかというところで話が主に終わっていたと思うのですけれども、実際に利用方法がどうなのか、予約がとか、抽選でとか、何時までとか、いろいろなルールとか、飲み食いでできないとか、スマホ禁止とかそういった細かいところも調べて実態としてリスト化できないかなと。そういったところが使いにくくて、子どもは居場所が不足していると感じているのだという、そこまで突っ込まないと言えないのではないかなと思っていて、どのような施設があるかだけではなくて、その施設の利用方法というところも網羅した、これは調べて内容をまとめる部分があったほうがいいのかと思いました。その上で、施策としてこういうのがあって、今、実際にどのような施設があって、そこでこういったところの改善をお願いできないか、こういった改善を考えていく必要があるのではないのかという意見にもなるでしょうし、あるいは、なかなか予算がないとできないことについては、そういったところの予算を検討するところで、議論の俎上に載せていかないといけないのではないのかという議論も、私たちから意見を出していかないといけないでしょうし、何か今回のこの文案はもうちょっともまないといけないなということを改めて私は感じました。

皆さんから今聞いたことを反映させること、これは意見を言ってくれた子どもたちに対する私たちの責任でもあるので、そのまとめ方も考えたいなと思いました。

事務局のほうで、今まで話を聞いていて、何かお感じになったこととかありましたか。

事務局（子ども政策担当課長）

ありがとうございました。これまで委員の皆様、短い期間の中で子どもたちの声を聞いていただき、今ご議論いただいた中での部分、中間答申の中にどのような形で入れ込んで反映させていくかというところについては、少し事務局の中でも検討させていただければなと考えています。

内田会長

ありがとうございました。お願いします。

相川委員

今のお話を伺って、ぜひ評価したいなと思った事業が、中野区の放課後子ども事業というのがあって、ボランティアの方が予算をつけてできる事業で多分すごく長年あるものだと思うのですが、それが始めやすい環境になっているのかとか、先日、沼袋で20年だったかな、沼スタといって、中高生の。小学生から中高生まで音楽を支援してくださっている方がいて、その沼スタライブを見に行ったりしたのですが、中高生の参加があったり、やっぱりなかなか新規の人を呼びにくいみたいなことも伺っていたので、せっかくやっても、そこまで宣伝とかに力が割けない方がいるのだとしたら、そういうところをお手伝いしたりとか、区がもう少し。最近だと、そういう方を区報でピックアップして紹介してくださったりもしているので、すごくいいなと思うのですが、そういう視点で、今の事業を見てもいいのかなと思ったのが1点です。

あとは、先日、うちの近所の地区委員会のチラシというか広報誌を見ていたら、去年と今年とその地区委員会に子ども、中学生を招待して話を聞いたという事例が載っていました。初年度は中学生と大人も各校、最近地区委員会で子どもの意見を聞いてほしいとか、居場所をテーマにしてほしいという話があるのか、初年度はよく分からず、大人も子どももお見合いみたいな感じだったのですが、2回目をやったら、結構いろいろな意見交換ができてすごくよかったということが書いてあって、すごくいいことだなと思ったので、そういう形で地域に中高生の居場所が広がっていくのもすごくいいなと思ったので、検討していただきたいです。

あと最後に、朝の居場所、今ほかの23区、朝早く共働きで親が出かけてしまうので、子どもが1人で学校に行かなければいけない。なので朝の学童みたいなのを始めている自治体が多い中、中野区は何も言っていないなと。そこまでニーズないのかな、交通の便、アクセスもいいし、みんな間に合っているのかなとか思っていたところ、検討を始めるので

アンケートをお願いしますという連絡がちょうど来て、うちは大丈夫だったので「大丈夫です」と回答したのですが、居場所と言ったときに、今の時代の流れ的に、朝の居場所についても何か言えるといいのかなと思ったところです。

内田会長

ありがとうございます。そういうのも網羅したいなと思います。ほかはどうでしょうか。大丈夫ですか。

次回5月になるのですが、5月には今回のお話を受けて、もう1回この答申案をもんで、もう1回直す感じになるなと思うのですが、それを見て、またご意見いただくという形になる。もう中間答申を出す前にもう1回という感じになるので、今日のお話を受けて、少し構成を考えないといけないかなと思います。また案をつくって、また時間をとって見ていただけるようにはしたいなと思っているので、お時間あるときに見ていただければ、またご意見いただければと思います。

それでは、最後、議事の3「その他」というところなのですが、特に委員会全体を通して何かご質問、ご意見あればですが、大丈夫ですか。パッと思いついたことはありますか。

別當委員

相談があります。今回取材ができなかったので、5月に向けても引き続きそういったニーズとか、奥深いところまで取材ができればやってもいいですか。

内田会長

それはもうまさに、常に聞けるときに聞くという姿勢が私たちに求められているのだと思います。私もこの3月、日本に半分いなくて、ストックホルムに行ったのと、ベルギーのブリュッセルに行ったのと、両方ともいろいろな子どもの施設とか、施設で働いている人たちに話を聞いたりしてきたのですが、やっぱりどちらも子どもに意見を聞いて、その施設を運営するとか、何かつくるときに子どもの意見を聞くのは本当に当たり前で、今さらそんなことは、いちいち言わない、でしたね。

直近で覚えている話だと、9月から学校にスマホを持ってくるのは全面禁止しようと思うということを大人から打ち出して、思うのだけど、皆さんどう思いますか。スマホ全面禁止になったら、やっぱりいろいろ支障がある、問題がある、意見のある人はぜひまとめてほしい。子どもたちに投げて、子どもたちの中で意見をまとめて大人に言う、こういうキャッチボールを当たり前に行っている。施設についても、そこで何をするのか、子

どもたちがどんな活動をしたいのかということが本当にできる場をどんどん整えていく。もう本当に当たり前なのだよなと思わされるどころだったので、今回声かけをさせていただいて、ぜひ聞けるところで聞いてくださいとお願いしたのですけれども、聞ける機会があったら、その機会をパッと捉えて、少し「どう思うか」と聞いてほしいなと思います。次にその話を伺いたいなと思います。

相川委員

この子どもの権利委員会で内田先生が言ったからだと思うのですがけれども、今年のハイティーン会議は小学生も一緒に会議をすることに決まったと。

内田会長

ティーンズ会議になったのですよね。

事務局（子ども政策調整係長）

そうです。ティーンズ会議ということで、小学4年生から6年生もという形で対象年齢を拡大して実施します。

相川委員

きっと、内田先生の思いがすごく反映されたのではないかと。そういえば知らない方もいると思うので。

内田会長

どうもありがとうございました。少しずつ変わっていていることは実感しますよね。ぜひその歩みを止めないで、さらに前に進めるためにも意見を出していきたいと思います。

それでは、特になければ事務局から事務連絡をお願いします。

事務局（子ども政策調整係長）

まず、次回開催予定についてご案内いたします。次回は5月13日火曜日19時から、本日と同じく701、702会議室で開催を予定してございます。開催通知は改めてお送りいたしますので、よろしく願いいたします。また、本日資料を閲覧いただいたパソコンに関しては、電源等を切らずにそのままお帰りください。最後に、本日委員の方で駐車券、駐輪券がございましたら、事務局までお声かけください。以上です。

内田会長

ありがとうございました。それでは、これで第2期第5回中野区子どもの権利委員会を終了です。皆さん、本日はありがとうございました。

午後8時53分 閉会